



秋の七草は山上憶良（やまのうえのおくら）が万葉集で選
定しました。「秋の野に咲きたる花を指折り（およびをり）
かき数ふれば七種（ななくさ）の花 萩の花 尾花葛花 撫子
の花 女郎花（をみなえし）また藤袴 朝貌（あさがお）の花」
春には「七草がゆ」として食されていますが、秋の七草は、
花そのものを愛でているようです。でも、お団子も・・・。



今、ふれあいの村では・・・



ふれあいの村の駐車場の端にある石の上で、アオスジアゲ
ハが日なたぼっこ？をしているのをよく見かけます。
今日は受付を通過し、そのまま階段の上を飛行、ふれあい広
場をめざしたようです。窓の前でひと休み。ガラスに映った
自分の姿にうっとりとしています。長時間の滞在でした。
ツクサを撮影した職員は、「まるでハチに『おいで！お
いで！』をしているように見えた」と言います。誘われて、
左から、徐々に近づいていきました。右の写真では花に到着し、
花粉を集め始めています。花がハチを優しく包み込んでいる
ように見えたそうです。子孫を残す戦略のひとつですね。

足柄自然観察会 9月4日 10:00～12:00

テーマ：実りの秋。里山の花たち（秋の七草）
鳴く虫のいろいろ（クツワムシの合唱）

※7ファミリーコミュニケーション運動の一環として、毎月、第一日曜日に開催
※申込み・問合せは電話などで、お気軽にどうぞ。

神奈川県立足柄ふれあいの村（南足柄市広町1507）
指定管理者：足柄グリーンサービス・関東学院グループ
所管課：神奈川県教育委員会教育局支援部
子ども教育支援課

電話：0465-72-2010 FAX:0465-72-2013
URL: <http://www.ashigara-fureai.com/>

四種のミズヒキ

花弁はなく、四裂するするがくの上半分が赤く、下半分が白く見えるのが紅白の水引に例えられたミズヒキです。白色の品種はギンミズヒキでタデ科に属します。キンミズヒキは花の付き方からミズヒキを連想した名前と言われていますが、バラ科の植物です。



ミズヒキ(左)、ギンミズヒキ(右上)、キンミズヒキ(右下)、あと一種は『たより』のどこかにあります。

★フィールドワーク★

自然の生活とは？

野外を探検・調査・観察することをフィールドワークといいます。



クキ^ク(臭木、においから)

植物の名前はどのように付けられているのでしょうか？ いくつかのパターンがありますが、その植物の特徴的な〈におい〉からきたもの、〈生えている場所〉を表わしたもの、〈触感〉や〈用途〉、〈大きさ〉から付けられたもの、〈動物の名前〉が付くものなどがあります。

ある日のこと。写真を撮っているところに、林間学校で入村した少年4人組がやってきて、「何をしていますか？」と聞かれたので、コブシを指して「あれは何に見える？」と聞き返したら、「ムキムキ！」という返事がかえって来ました。コブシは果実の〈形状から〉付いたと言われていますが、少年たちには別のものに見えたようです。名前の付け方には〈その地方独自に〉命名される例もあるので、ムキムキは新たな名前として記憶にとどめました。



ヤブラン(場所から)



タイザミ(触感と葉が鯛の骨の形から)



タンキリマメ(用途から)



キツネマコ^コ(動物の名から)



猿のパンツことミツバウツギ(形から)



ムキムキ(ふれあいの村で少年4人組が命名)